

今後の札幌のまちづくりを考えるシンポジウム 基調講演 概要



寺島 実郎 氏

一般財団法人日本総合研究所 会長
多摩大学 学長
札幌市 市政アドバイザー

札幌市の市政アドバイザーの寺島実郎氏が、グローバルな視点で札幌のまちづくりについての基調講演を行いました。

人口減少・少子高齢化

物事の戦略を考えるときは、「人口に始まり人口に終わる」と言われており、まちづくりにも同じことが言えます。日本の人口は2008年に約1億2800万人でピークアウトし、2050年前後には1億人を割ると推計されています。しかも人口が減るだけでなく、人口構成も変わり、4割近くが高齢者となる見込みで、異次元の高齢化・人口減少社会の到来が見込まれます。そして北海道の場合、2050年の時点で319万人のうち175万人(約55%)が札幌に集中すると予測されています。このように人口から考えていくと、札幌が背負わなければならない課題が見えてきます。



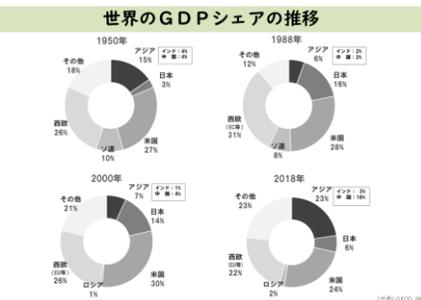
日本のGDPの世界シェア低下

人口に加えて、私が非常に重視している数字が、日本のGDPが世界のGDPに占める割合です。高度経済成長にあわせて16%まで上昇しましたが、2018年には6%まで低下しています。一方、日本を除くアジアは23%まで上昇しています。このままだと2050年には2%前後になることも見込まれ、「世界の中で縮む日本」と言わざるを得ない状況です。



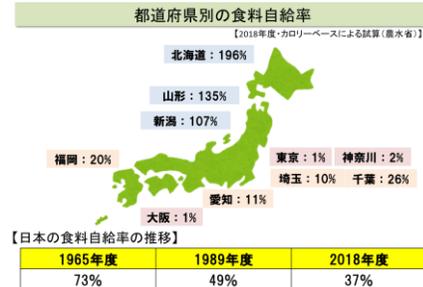
「健全な危機感」の必要性

これらのデータを踏まえ私が言いたいのは、日本人には「健全な危機感」が必要ということです。「何となく日本は大丈夫」「株価が高く推移しているから問題ない」などと認識している人がいますが、そうではなく、健全な危機感を持ち、それをバネに「柔らかな構想力」をもって希望を拓いていくことが求められます。そして、このような危機的状況に対し、コロナがもたらした教訓を活かして、新たな産業構造へ転換していく必要があります。重要となる産業は、「食と農」「医療・防災産業」「観光」の3つです。



食と農

今後重要となる産業の一つとして、「食と農」が挙げられます。北海道の食料自給率は196%で、これは北海道の人が誇るべき数字です。日本の低い食料自給率を北海道が支えているという事実が、北海道の将来にとって大変大きな意味があります。ただし、食と農の今後の在り方として一歩踏み込んで考えると、ただ生産量だけを誇っているだけではなく、加工と流通を合わせた食のバリューチェーンを展開させていく必要があります。単なる生産ではなく、「旨い飯をつくり、食う」をどうプロジェクト化していくかということが重要と考えます。今後、日本の人口は減りますが、世界人口は2050年の段階で100億人に迫ると言われ、人口爆発が見込まれます。世界は必ず食の問題に直面します。そんな中で、北海道は日本の食の安定軸になると言えます。食材大国として食材を供給していく存在となる訳ですが、単なる供給だけでなく、付加価値の高い食を安定供給する仕組みを設計していくことが重要です。



医療・防災産業

今後重要となる産業の二つ目として、「医療・防災産業」が挙げられます。コロナを受けた緊急調査で「日本人の人命に関する分野(マスク、防護服、人工呼吸器などの産業)の調査したところ、マスク一枚国産化できていない実情が浮き彫りになりました。平常時であれば輸入に頼ることも間違いではないですが、コロナのような緊急時にはどの国もマスクを輸出禁止とし、自国優先になってしまいます。よって、最低限は国産で確保できる安定基盤を作っておくべきで、それもただ量を確保するだけでなく、より高機能であることが求められます。札幌には、北海道大学・札幌医科大学といった全国レベルのアカデミズム基盤があります。こういったポテンシャルや、今まで蓄積してきた技術や人材、またはDX技術、IoT、ネットワーク情報技術などの活用により、豊かさのための産業から、国民の安心と安全のための産業に転換を図ることが重要です。

観光

そして、北海道がこれから向きあうべきテーマが「観光」です。今までの北海道は「量」ベースのインバウンドによる観光立国を進めてきましたが、今後は量だけでなく、付加価値の高い観光、いわゆる「深い観光」を目指す必要があります。具体的には札幌や北海道の開拓に関わる歴史・世界との関りを含めた歴史観光(歴史ツーリズム)や、例えば苫東のような大型工業団地に世界をリードするプロジェクトを配置し、産業観光(インダストリアルツーリズム)を推進するなど、質が高く、世界の人々を惹きつけるような観光が求められます。これからは世界中の知恵くらべで、その知恵がある所に人と技術と情報が集まっていくとも言えます。

北海道・札幌の課題

北海道の最大の問題は、時代認識や新たな時代変化に対する感度が鈍いことと言えます。伝統的に中央依存・官依存の意識が定着しており、主体性に欠ける印象を受けます。自身でプロジェクトをまとめ上げる力が弱く、前提としての情報感度も鈍いと感じます。

北海道は、古くは石炭、今は農業といった一次産業のベースキャンプとして日本を支えており、食・農のポテンシャルは高いです。また、北海道大学、札幌医科大学は日本でも最先端の研究を行っており、アカデミズムの領域も全国的に見て高いレベルと言えます。

重要なのはそれらをコーディネートし、一つのプロジェクトとしてまとめ上げてく力です。「ポテンシャルはあるんだけど」とため息をついている場合じゃなく、プロジェクト化していく努力・取組が求められます。

